



青いドレス姿で美声を披露した立花正子さん

澄んだ歌声ふるさとに響かせる 立花正子さんリサイタルで披露

町六原出身のソプラノソリスト立花正子さんによる「ゆかりのコンサート」は3月18日、中央生涯教育センターで開かれました。

ステージに登場した立花さんは「このような機会をいただき感謝しています。勉強中のオペラなど心を込めて歌いたい」と古里で初のリサイタルを行いました。オペラのほか、なじみ深い日本歌曲も披露。美しく澄んだ歌声と豊かな表現力で聴衆200人を魅了しました。

立花さんは、金崎中、黒沢尻北高を経て武蔵野音大音楽科に進み、同大学大学院修士課程を修了。各種コンクールで優秀な成績を収めています。



寸法を計りながら、枕木を削る参加者

歴史的な雰囲気と調和させよう 旧大沼家待住宅に手作りベンチ

城内諏訪小路まちづくり実行委員会（齋藤康彦代表）は3月24日、旧大沼家待住宅で枕木を材料にしたベンチを作り、敷地内に設置しました。

これまで置かれていたベンチはプラスチック製。歴史的な景観とそぐわないことから、同委員会では、古い枕木材を利用したベンチを作ろうと、日曜大工の体験講座を企画しました。

指導にあたった大工などを含め16人が参加。2台の手作りベンチを完成させました。齋藤代表は「景観にマッチしている。ベンチに座って伝建群や待住宅に理解を深めてほしい」と話していました。

アマースト町での思い出胸に帰国 第20回中学生海外研修で米国へ

第20回中学生海外研修（団長小関昭夫教育委員会主幹）は3月18日から27日までの10日間行われ、参加した金ケ崎中学校2年（現3年）の15人が思い出を胸に帰国しました。

一行は、ニューヨーク市やボストン市を訪問したほか、姉妹都市アマースト町を訪問。アマースト町では、4泊5日のホームステイや中学校での授業体験を通じて交流を深めました。

27日の深夜に帰国した一行。解散式で、参加団員を代表して、穴ゆうかさん＝川目＝が「最初はコミュニケーションがとれなかったけど、だんだんお互いに理解できるようになってよかった。素晴らしい機会を与えてくれた方々に感謝したい」とあいさつしました。



さよならパーティーでアマーストの中学生と

小学校でも節水や節電を実践中 学校環境ISOの認定証を交付

学校環境ISO認定証交付式は3月5日、役場大会議室で行われ、環境に優しい活動に取り組んだ小学校の児童代表が高橋由一町長から認定証を受け取りました。

学校環境ISOは、町独自の学校環境保全規格。小・中学校で環境教育の普及を図ろうと制定したもので、「照明の電気を小まめに切る」など省エネ・省資源についての実施項目6分野15項目のうち、4項目以上を3カ月以上実践した団体に認定証が交付されます。

18年度は 西小（4 - 6年27人） 金ケ崎小（4 - 6年223人） 第一小（5年29人） 三ヶ尻小（1 - 6年92人）の4団体が交付を受けました。



高橋町長から認定証の交付を受ける西小児童

Town's Topics まちの話題

金ケ崎幼稚園（及川勝治園長、園児34人）と西幼稚園（高野旦也園長、園児20人）は、4月から南方幼稚園への統合に伴い閉園しました。

このうち金ケ崎幼稚園の閉園式は3月23日、同園で開かれ、25年の歴史に幕を閉じました。式には、園児、教職員、保護者地域住民ら関係者150人が出席。高橋由一町長の式辞、及川紀美子教育委員長の告辞に続き、及川園長、菊地衛議長があいさつしました。

及川園長は「金ケ崎幼稚園が築き上げた歴史は、記憶の中で輝き続けます。多くの子どもたちが園舎での思い出を胸に羽ばたいてほしい」と述べ、関係者に感謝するとともに、卒園生や送り出す園児たちの活躍に期待を寄せました。

席上、幼稚園の運営に尽力した歴代園長とPTA会長、地域団体、地域住民に感謝状を贈呈。園児が全員で「思い出いっぱいありがとう。金ケ崎幼稚園さようなら」とお別れの言葉を告げました。

3、4歳児27人は4月から南方幼稚園などに通園します。

たくさんの思い出をありがとう 金ケ崎幼稚園と西幼稚園が閉園



金ケ崎幼稚園閉園式で園歌を斉唱する園児ら出席者



左 西幼稚園舎。今後は「子育て支援センター」としての活用を予定
右 金ケ崎幼稚園舎



真剣な表情で担任教諭の話聞く第一小新入生

楽しい小学校生活が待ってるよ 町内小学校へ新入生142人が入学

町内5小学校で4月6日、入学式が行われました。大きなランドセルを背負った新入生たち142人が、元気に学校生活をスタートさせました。

このうち第一小学校（千葉正幸校長、児童177人）には26人が入学。式では、保護者や在校生らが見守る中、緊張した表情で入場した新入生でしたが、一人一人の名前が呼ばれると大きな声で「はい」と返事をしていました。

式が終わり、早速教室に入ってきちんと席に着いた新入生たち。担任教諭の話聞きながら、真新しい教科書を手に、これから始まる楽しい学校生活への期待で胸を膨らませていました。

ミュージカルフランダースの犬 劇団ゆうが歌と踊りで観客魅了

NPO法人劇団ゆう（菊田悌一代表）のミュージカル公演「フランダースの犬」は3月25日、中央生涯教育センターで開かれ、親子連れなど観客約300人が名作ミュージカルを鑑賞しました。

劇団ゆうは、滝沢村を拠点に、全国各地での移動公演やチャリティー公演など幅広く活動している団体。今公演では、総勢65人のスタッフが舞台を作り上げました。

公演は、小学5年から中学2年までの子どもたち45人による軽快な歌と踊りで幕開け。少年ネロと名犬パトラッシュの感動の物語を表情豊かに演じた劇団員たちに観客から盛大な拍手が送られていました。



互いの友情を確認する主役ネロとパトラッシュ